

製造現場の情報管理を AIが変える

Backlog AIアシスタントで
日常業務の“蓄積”を組織知に育てる



“企業”のAI導入に求められるもの—仕事は「チーム」で進んでいる

生成AIの普及により、個人の報告書作成やメール文面の作成は劇的に早くなりました。しかし、AIでは効率化しきれない業務も多く存在します。実際の業務は個人ではなく、常に複数のメンバーや前後工程の「チーム」で進むものだからです。

汎用AIでできること ➡ 個別最適

- 一般的な文章の要約や翻訳
- 一般論に基づくトラブルシューティング
(自社の設備には当てはまらない)

電話とチャットで応援を呼んでも、誰がどう処置したかは、結局あとで日報のメモ欄を見るしかない。

現場のチーム・管理者が求めること ➡ 全体最適

- 「自社のあのラインの、過去の類似トラブル」の対応経緯
- 「以前この不適合をどう判断して・どう処理したか」の組織知
- 現場に新たな入力負荷をかけずに、これらを瞬時に引き出せる仕組み

自社データを“AIに渡せない”壁

チームの文脈をAIに理解させるには、自社のデータをAIに参照させる必要があります。しかし「AIに投資せよ」と求められても、現場には超えられない高いハードルが存在します。

企業のAI活用を阻む2つの現実

原因
01

自社データを汎用AI に渡せない

セキュリティとデータ散乱の壁

機密情報である図面や不具合データを一般のAIに学習させるわけにはいきません。さらに、日々の対応経緯が個人のエクセルや口頭に散乱しており、そもそもAIに渡せる整ったデータが存在しないのが実態です。

原因
02

専用システム（RAG）の 構築はコストがかかる

時間とコストの壁

社内データ参照用のAIシステムを一から構築するには、莫大な開発コストと、現場の「データ入力」「メンテナンス」の手間が発生します。AIの効果を実感するまでにかかるコストと時間のハードルが高くなります。

業務情報が集約される「Backlog」をAIのデータベースにする

Backlogは日常のタスク・進捗・やり取り・資料を1か所に集めるプロジェクト・タスク管理ツールです。
チームの日々の仕事が自然と蓄積される「Backlog」をベースにAIを動かすことができます。

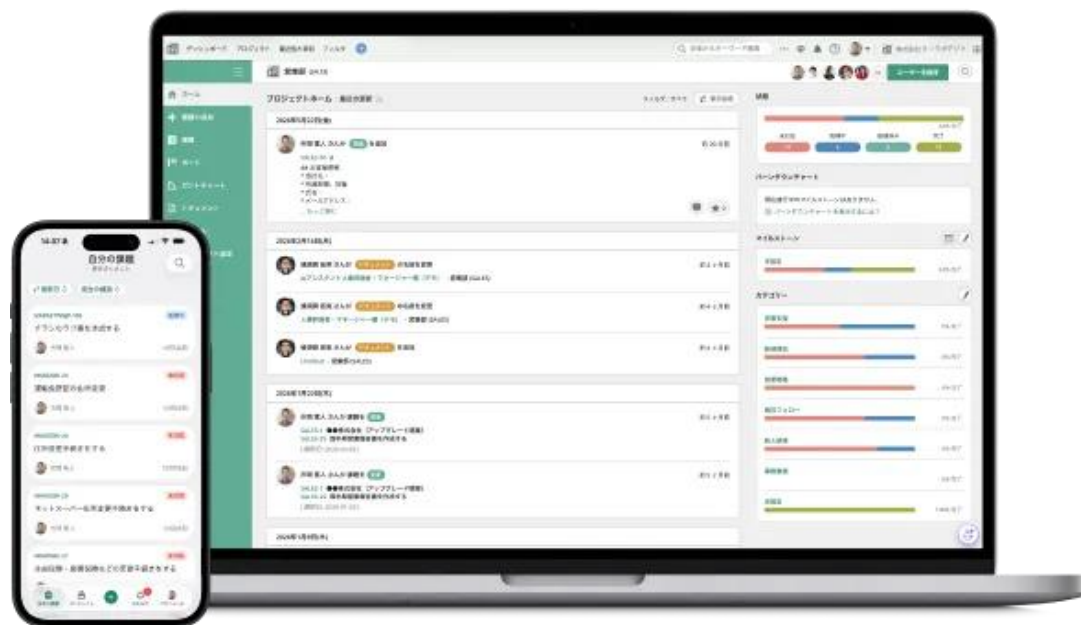
現場業務

工程変更・4M変更の確認

品質トラブル・是正対応

設備保全・点検の申し送り

改善活動・定例報告



backlog
by nulab

できること

担当・期限・進捗の把握

判断経緯・対応履歴の可視化

関連情報の部門間共有

知見の蓄積・引き継ぎ

BacklogをAI基盤にする3つの理由

Backlogには、蓄積された情報を生成AIが読み取り状況を整理することで、次のアクションへとつなぐ「Backlog AIアシスタント」機能があります。

理由
01

**「いつもの実務」が
そのままAIのデータ
(組織知) になる**

現場は報告書を一から書く必要はありません。Backlogで普段通りにタスクを動かし、進捗や不具合のやり取りをするだけで、それがそのままAIの参照する「生きたデータ」になります。

理由
02

**個人ではなく
「チーム・組織の文脈」を
AIが読み解ける**

誰がどんな判断をして、前後工程でどう会話したかという、汎用AIには真似できない「自社ならではの仕事の進め方（プロセス）」をAIが参照できる基盤として蓄積できます。

理由
03

**コストをかけず、
「チーム専任AI」を
すぐスタートできる**

現場の情報が集約されるBacklog上でAIを動かすため、開発コストの肥大化や立ち上げスピードの低下を防ぎ、明日から現場主導のDXを実現します。

Backlog AIアシスタントと汎用AIの違い

Backlogだけでは

過去のデータは膨大で、自力ですべてを検索・集計するのは困難。

汎用の生成AIでは

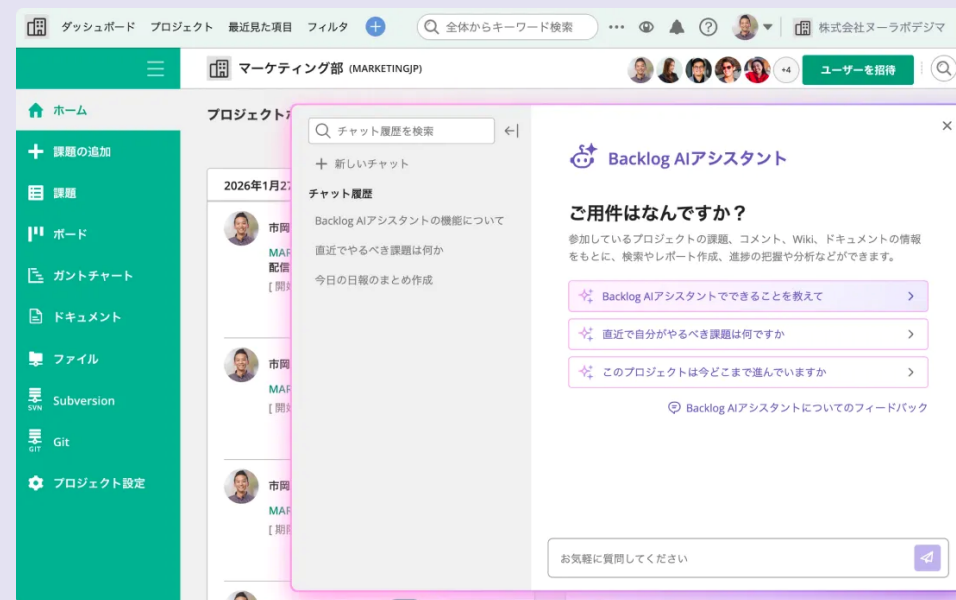
Web上の公開データをベースに「一般的な回答」を返すだけ。

自社プロジェクトの文脈や、あなたが施した「工夫」は知らない。



Backlog AIアシスタントなら

自社チームのタスクやトラブル対応の履歴をベースに動くため、現場実務に即座に役立つ具体的な支援が可能。



Backlog AIアシスタントチームの「実務」に並走する3つの特徴

特徴 01

「自社の判断基準」を読み解く

Backlog AIアシスタントは、利用者が権限を持つBacklog内のプロジェクト情報を参照するため、自社の工程・品質・保全の経緯を踏まえた回答が可能。

特徴 02

難しいプロンプトは不要。話しかけるだけ

Backlog AIアシスタントへの指示は「今週の進捗を整理して」「Aさんの今月の対応状況を教えて」のような短い自然言語で十分。文脈はBacklog内のデータが補うため、特別なプロンプトは不要。

特徴 03

自社データの取り扱い

Backlog AIアシスタントは、入力された情報がAIモデルの学習に利用されることはなく、参照範囲も利用者の権限内に限られる。
社内情報を外部サービスに添付する手順を踏まずに、Backlog内で業務支援を完結できる。

[Backlog AIアシスタントについて詳細はこちらから](#)



>> ひとつの問いかけで進捗状況の確認ができる

Backlog AIアシスタントに状況確認を依頼すると、
完了タスク、遅延、未解決の課題、来週の重点事項が整理されて返ってきます。

プロンプト例

「今週の〇〇プロジェクトの進捗状況を教えてください。」

出力項目

- 完了した課題一覧
- 未完了の課題リストとステータス
- リスクのある課題の注意喚起
- 進捗状況の評価コメント

✅ 今週完了した課題（7件）

課題	件名	担当者	完了日
KAIHATSU-339	【新製品立上】製品仕様の確認	山下 光太郎	6/15
KAIHATSU-340	【新製品立上】立上スケジュールの作成	山下 光太郎	6/16
KAIHATSU-347	【新製品立上】作業手順書の作成	山下 光太郎	6/17
KAIHATSU-246	【新規施策】営業要件整理作業	今宮 晃	6/17

[KAIHATSU-](#)

[KAIHATSU-](#)

[KAIHATSU-](#)

⚠️ リスク・注意事項

リスク	対象課題	理由
🔴 長期放置	KAIHATSU-27 ・ KAIHATSU-28	約1年前（2025/6）から未対応のまま、担当者も未設定
🟡 担当者なし・期限なし	KAIHATSU-97, 98, 107 他複数	期限・担当者がともに未設定で進捗が追えない状態
🟡 処理済みで止まっている	KAIHATSU-78 ・ KAIHATSU-126 他	処理済みのまま「完了」になっていない課題がある

まとめ：今週は新製品立上・新規施策プロジェクトを中心に7件が完了しており、順調に前進しています🎉
一方で、担当者・期限が未設定の放置課題が複数あるため、クローズまたは担当割り当てを検討することをおすすめします。何か対応しましょうか？

>> 「あのとき、どう対応した？」過去の記録から回答を作成

Backlog AIアシスタントに過去のトラブルについて尋ねると、蓄積された課題やコメントから、類似事例とその対応経緯が整理されて返ってきます。

プロンプト例

「去年の〇〇ラインの類似トラブルと、対応経緯を教えてください」

出力項目

- 類似トラブルの課題一覧
- 原因と対応内容の要約
- 判断の経緯
- 対応経験者の提案

The screenshot displays the Backlog AI Assistant interface. At the top, it says "Backlog AIアシスタント". Below this, there's a search bar with the text "原因と対応内容の要約". The main content area is divided into several sections: "発生状況" (Occurrence Status), "真因" (True Cause), "対応内容" (Response Content), "判断の経緯" (Reasoning for Judgment), and "対応経験者の提案" (Proposal from Response Experience). The "発生状況" section lists details about a trouble on the CN-B50 series. The "真因" section identifies the cause as wear on the die and lack of maintenance. The "対応内容" section lists four steps: full recovery of defective products, die measurement and re-grinding, confirmation of specifications, and setting a maintenance cycle. The "判断の経緯" section explains the decision-making process. The "対応経験者の提案" section provides a recommendation for the new CN-A100 series.

Backlog AIアシスタント

原因と対応内容の要約

発生状況

- CN-B50シリーズの量産初期ロット（Lot No. 2024-03-B）で、電気検査工程にてコンタクトピンの位置ズレを検出
- 不良率：9個 / 400個（2.25%）、最大ズレ +0.11mm（規格±0.05mm）

真因

- プレス金型の転造部が摩耗し、ピン成形寸法が規格超え
- 金型メンテナンス周期が未設定のまま量産移行していたことが根本原因

対応内容

1. 不良品の全数回収・隔離
2. 金型の転造部寸法測定・再研磨（金型メーカーに依頼）
3. 修正後の試作品で全点規格内を確認
4. メンテナンス周期を50,000ショット毎に規定

判断の経緯

1. 量産初回出荷前検査で不良を検出 → 即時全数回収・隔離を判断
2. 金型摩耗が原因であることを寸法測定で特定
3. 単純な再研磨だけでなく「周期的なメンテナンス規定の整備」まで踏み込んだ恒久対策を採用
4. CN-A80・CN-C30シリーズの同型金型にも水平展開対応を実施

対応経験者の提案（課題より抜粋）

新製品 CN-A100 量産立ち上げ時の金型管理計画に、本事例を反映すること（→ 要確認）

現在進行中の量産立ち上げ（CONNA-22 ライン試作準備 / CONNA-23 初回試作）では、この教訓を活かして事前に金型メンテナンス計画を盛り込むことが強く推奨されています。工程FMEA（CONNA-24）の実施時にも本事例をチェック項目として含めると良いでしょう。

>> 報告書のドラフトをAIに任せる

把握した情報をもとにBacklog AIアシスタントが報告書の構成を整えます。
PM・マネージャーは確認と調整から始められます。

プロンプト例

「経営層向けに、〇〇プロジェクトの進捗レポートをまとめてください。主要な成果、進捗率、リスク、今後の予定を簡潔に3つのポイントで報告してください。」

出力項目

- 主な成果の内容と完了日
- 各課題のステータス分布
- リスクと今後の予定一覧
- 総括のコメント

KAIHATSUプロジェクト 進捗レポート

レポート日時：2026年6月18日

✅ ポイント1 | 主要な成果

直近1週間で新製品立上プロジェクト・新規施策

課題	内容
KAIHATSU-347	新製品立上
KAIHATSU-246	新規施策
KAIHATSU-247	新規施策
KAIHATSU-340	新製品立上

⚠️ ポイント3 | リスクと今後の予定

● リスク（要注意）

①「定期更新」マイルストーンが1週間後（6/25）に迫っています。Aサービス・Bサービス関連タスクのうち、一部が完了済みである一方、未対応課題が残っており、納期の達成可否を即時確認が必要です。

②未対応・期限超過の課題が多数蓄積しています（30件超）。担当者未割り当ての課題も複数あり、放置リスクがあります。代表的な例：

課題	内容	期限超過
KAIHATSU-130	顧客A 〇〇システム（処理中）	2026/1/30
KAIHATSU-125	【XXエリア】工事完了	2026/1/30
KAIHATSU-86	補助金対応PJ 申請スケジュール整理	2026/1/31

📅 今後の予定

時期	予定
2026/6/25	❌ 「定期更新」マイルストーン期限
2026/7/24	❌ 「新規事業計画PJ」マイルストーン期限

蓄積した業務情報がレジュメ作成を自動化

Backlog AIアシスタントは、Backlogに業務情報が蓄積されていることで初めて力を発揮します。報告書作成の効率化と、設計開発部門でのナレッジ検索——導入企業2社の事例を紹介します。

Case 1

報道機関／システム部門

レジュメ作成が1時間から30分に半減

導入前

- エクセルやチャットでは情報が散在し全体像の把握が困難だった。
- 業務報告書は手作業の整理に時間がかかり、汎用生成AIはコピペや情報漏洩リスクが課題だった。

Backlogの使い方

- 開発タスクを一貫管理し、進捗は課題、手順はドキュメントに集約。
- Backlog AIアシスタントでレジュメ作成や振り返りを自動生成。

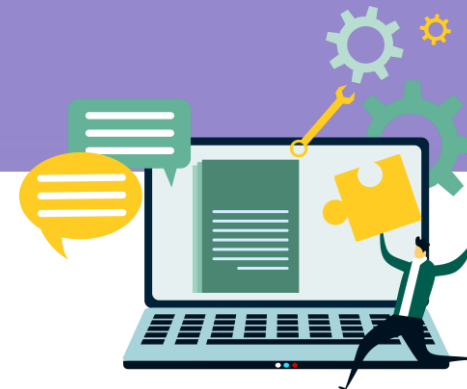
導入後

- レジュメ作成は1時間から30分に半減し、浮いた時間を施策の立案や判断など人間にしかできない業務に充てられるようになった。
- 属人化防止にも役立っている。

詳細はこちら

Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます

課題調査にかかる時間を短縮



Case 2

自動車メーカー／設計開発部門

業務振り返り・ナレッジ検索に活用

導入前

- Backlog内の過去タスク検索や業務振り返り、類似業務の担当者探しに手間を要していた。
- 汎用AIでは自部門固有の業務ナレッジを扱えなかった。

Backlogの使い方

- 車両部品の設計・開発管理に加え、Backlog AIアシスタントで業務振り返り・類似業務検索・有識者探し・注意点の洗い出しなどに活用。

導入後

- あいまい表現でも横断検索でき、過去課題調査で1回数分～数十分短縮。
- 日々の記録がAI用データベースとなり業務マニュアル化への道筋が見え始めた。

詳細はこちら

Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます

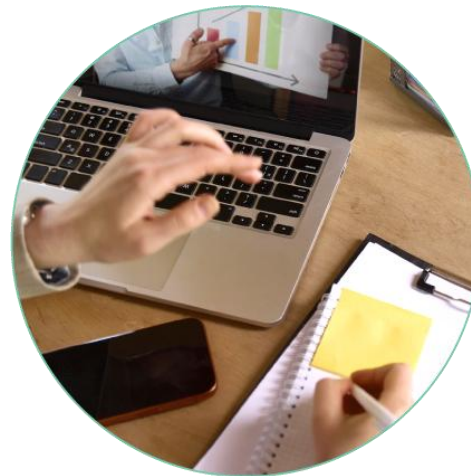
お気軽にお問い合わせください

無料トライアルで試す
まずは使ってみる



30日間無料で試す

オンラインセミナーで学ぶ
まずは話を聞きたい



オンラインセミナー

個別相談会で相談する
相談しながら決めたい



個別相談会

Backlog AIアシスタントをもっと知る

概要・料金を知りたい



資料をダウンロードする

セキュリティ面を知りたい



資料をダウンロードする

特設サイト



特設サイトを見る

会社概要

社名 株式会社ヌーラボ

設立 2004 年3月

事業内容 チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供

- プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」
- オンラインホワイトボードツール「Cacoo」
- 組織の情報セキュリティ・ガバナンスを強化するツール「Nulab Pass」
- ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」

本社 福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号
